研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-520	A-500	21-054	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Alcohol consumption and risk of inflammatory bowel disease among three prospective US cohorts

米国の 3 つの前向きコホートにおけるアルコール摂取と炎症性腸疾患リスク

執筆者

Casey K, Lopes EW, Niccum B, Burke K, Ananthakrishnan AN, Lochhead P, Richter JM, Chan AT, Khalili H.

掲載誌

Aliment Pharmacol Ther. 2022 Jan;55(2):225-233. doi: 10.1111/apt.16731.

キーワード	PMID
クローン病、潰瘍性大腸炎、ビール、ワイン、蒸留酒	34881819

要　旨

目的：アルコール摂取量・種類とクローン病（CD）と潰瘍性大腸炎（UC）の関連について縦断的に検討した。

方法：Nurses' Health Study、Nurses' Health Study II、および Health Professional Follow-Up Study に参加した男女 289,897 人を対象とした。CD や UC 既往歴のある者等を除外し、237,835 人を解析対象とした。飲量は定量食物摂取頻度調査で評価した。摂取頻度（非飲酒/月 1 杯未満、月 1-3、週 1 、週 2-4、週 5-6、毎日 1 杯、2-3、4-5、6 以上）よりアルコール摂取量(g/日)に換算し（0, 0.1-4.9, 5-14.9, 15g/日以上）、種類別（ビール、ワイン、蒸留酒）にも尋ねた。CD と UC は、2 人の医師が医療記録を独立してレビューし評価した。Cox 比例ハザードモデルにより、年齢、性別、BMI 等の多変量調整ハザード比（HR）および 95%信頼区間(CI)を推定した。

結果：5,170,474 人年の追跡調査で、CD370 人と UC486 人が確認された。アルコール摂取量と CD および UC に有意な関連はみられなかった（P trend = 0.455(CD), 0.745(UC)）。非飲酒者と比較して、15.0g/日以上の飲酒は CD および UC と関連を示さなかった（HR[95%CI] = 0.84[0.56, 1.24](CD), 1.08[0.77, 1.51](UC)）。種類別では、ビールの中程度摂取（週 1-4 杯）のみが CD リスクの低下傾向を示した（HR[95%CI]=0.53[0.28, 1.00]）。一方、蒸留酒の週 4 杯以上の摂取は、UC リスクの増加と関連した（HR[95%CI]=1.48[1.01, 2.16]）。

結論：アルコール摂取と CD または UC リスクとの関係はみられなかった。アルコールの種類と CD および UC リスクとの関連については、他コホートでも検証する必要がある。